

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 18

学校名・団体名	福島県小学校家庭科教育研究会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	北海道・東北地区小学校家庭科教育研究大会開催

〈活動・研究の意義、目的〉

全国小学校家庭科研究会は、全国の公立小学校教員約2,000人で組織され、小学校家庭科教育の充実発展に努めることを目的としている。本大会は、北海道・東北地区の家庭科教育に携わる会員が一堂に会し、授業参観を通して授業力を高める貴重な機会であり、また、家庭科教育の今日的課題に基づく実践の相互交流により研修を深め、各校の家庭科教育の課題解決の一助となるものである。

特に東日本大震災を経験した福島では、家族とのきずなの重要性や、社会の一員として他者と主体的にかかわる児童生徒の育成の必要性を再確認した。授業公開を通して家庭科の授業の大切さを多くの教職員の方々にアピールすることは大いに意義深いことと確信する。

1 実行委員会活動報告

平成 27 年 4 月 福島大会実行委員会立ち上げ
 平成 29 年 5 月 第 1 回実行委員会
 6 月 第 2 回実行委員会
 8 月 家庭科指導研修会並びに第 3 回実行委員会
 10 月 第 4 回実行委員会、大会当日
 11 月～ 研究収録作成
 平成 30 年 2 月 大会研究収録・報告書・決算報告完成
 実行委員会解散

2 第 32 回北海道・東北地区小学校家庭科教育研究大会福島大会について

- (1) 大会主題 未来を創り出す豊かな心と確かな実践力を育む家庭科教育
 ～家族とのきずなを深め、生き抜く力を育む家庭科の学習はどうあればよいか～
- (2) 開催期日 平成 29 年 10 月 20 日 (金)
- (3) 開催場所 福島大学附属小学校 福島市立福島第二小学校
- (4) 参加人数及び実行委員数 参加人数 216 名 実行委員 70 名
- (5) 日 程

	9:30	10:00	10:45	11:05	11:50	13:10	14:00	14:15	15:45	16:00	16:30
受	公開授業 《附属小》	休 憩	授業分科会 《附属小》	移動 昼食	開会行事 研究発表 全体指導	休 憩	講 演 《附属小》	準 備	閉会 行事 《附属小》		
付	公開授業 《福二小》		授業分科会 《福二小》								

(6) 公開授業並びに分科会

【第 1 分科会】家庭科(B) 日常の食事と調理の基礎 6 年

授 業 者 福島大学附属小学校教諭 高橋今日子
 司 会 者 福島市立蓬萊東小学校長 澤田 泰弘
 指導助言者 国立大学法人福島大学人間発達文化学類教授 中村 恵子 様
 〈本時〉

同じ課題をもった友達と考えを交流したり、全体で話し合ったりすることを通して、自分の食事調べを基にして立てた献立を、栄養のバランスのよい献立にすることができた。栄養技師との TT 指導、同じ課題をもつ子ども同士の交流等により食品を組み合わせる食べることの大切さをとらえることができた。



【第 2 分科会】家庭科(C) 快適な衣服と住まい 5 年

授 業 者 福島市立福島第二小学校教諭 八巻 律子
 司 会 者 桑折町立半田醸芳小学校長 宍戸 広子
 指導助言者 福島県教育庁健康教育課指導主事 千代田 幸子 様
 〈本時〉

布の種類や重ね方による保温性を調べることを通して、暖かい着方の工夫をとらえることができた。計画されていた実験に取り組み、その結果から暖かい着方をするための方法や理由を見出していくことができた。



【第3分科会】(C) 快適な衣服と住まい 6年

授業者 福島市立福島第二小学校教諭 早川 尚子
司会者 北塩原村立さくら小学校長 斎藤 秀樹
指導助言者 福島県教育センター指導主事 急式 祐子 様
〈本時〉

汚れを落とす試しの清掃の結果を報告し合い、話し合いにより状況に応じた汚れの落とし方をとらえ、実践の見通しをもつことができた。試しの清掃を行い、その結果をもち寄ったジグソー学習へと展開することで気づきを深めたり子ども同士の交流の意味が強まったりして、汚れの落とし方をとらえることができた。



【食育分科会】学級活動（食育）

授業者 福島大学附属小学校教諭 荒 篤徳
司会者 いわき市立永崎小学校教頭 松本美穂子
指導助言者 桜の聖母短期大学教授 土屋 久美 様
〈本時〉

かむことの大切さについて知り、課題解決の方法を話し合うことを通して自分のこれまでの食生活を見つめ直し、健康な生活のためによくかんで食べようとすることができた。養護教諭とのTT指導、かむ体験やそれをもとにした話し合い活動、ICTによる資料提示などを取り入れ、自分の健康をための行動目標を立てることができた。



(8) 全体指導 国立大学法人福島大学人間発達文化学類 教授 浜島 京子 様

3つの家庭科の授業について、3つの研究視点から、学級活動の授業については4年生までに家庭生活へ関心をもたせて家庭科学習へのレディネスを形成しておくことの必要をお話いただいた。今後の家庭科教育について、家庭生活を中心とした生活認識（見方・考え方）を広げ深めて、態度形成を図っていくことの必要をご指導いただいた。



(9) 講演 「新学習指導要領における家庭科の学習指導」

文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

筒井 恭子 様

本日の4つの授業についてご指導いただいた。また、新学習指導要領における家庭科の指導について、パワーポイントの資料をもとに今回の改訂の基本的な考え方や家庭科における生活の営みに係る見方・考え方、それらと関連を図った内容の見直し、社会の変化に対応した各内容の見直しなどを講演いただいた。



3 全体を通して

今回の研究を進めるにあたって、6年7か月前の東日本大震災と原子力発電所事故を通して、家族のきずなの大切さ、社会の一員として他者と主体的に関わることのできる子どもを育成することの必要性、家庭科そのものの重要性を柱として、実践を積み重ね、教育活動を通して具現することができた。大会当日は2会場で4つの授業公開、研究協議を行い、家庭科教育について子どもの姿を通した議論を交わすことができた。また、全体指導、ご講演を拝聴し、今回の研究の成果と課題をとらえたり新学習指導要領について理解を深めたりするなど研修を積むことができた。